

1. 基本方針

▷ 仙台の文化芸術の総合拠点

①「楽都仙台」を象徴する実演芸術の拠点

- ・音楽をはじめとする多様な文化芸術分野において、これまで仙台ではできなかった公演・活動を可能にし、仙台・東北の文化芸術を牽引する拠点
- ・市民とプロが共に主役となり、仙台ならではの創造発信を行う拠点
- ・仙台フィルハーモニー管弦楽団が本拠地として活動を展開する拠点
- ・国際音楽コンクールなどの市の文化振興施策の展開の中心となる拠点

②文化観光交流の新たな核となる拠点

- ・仙台が誇る青葉山エリアの新たなシンボルとなる拠点
- ・周辺施設との連携等によりエリアの魅力をさらに高め、賑わいを生む拠点
- ・交流の場として全ての人々に開かれ、一日中人の流れのある拠点
- ・これらを通じ、仙台という都市そのものに新たな魅力を付与する拠点

③復興の過程で明らかとなった文化芸術力を社会に活かす拠点

- ・文化芸術の持つ力を社会の様々な分野に活かし、地域のレジリエンスを高める拠点
- ・ホール公演だけではなく多様なアプローチで、文化芸術を浸透させる拠点
- ・あらゆる人に社会参加の機会を開き、多文化共生社会の実現に貢献する拠点

2. 機能

| | |
|------------|---|
| ①公演機能 | 音楽をはじめとした多様な実演芸術の鑑賞機会、発表機会を提供する機能 |
| ②練習・創造支援機能 | 練習活動をはじめとし、実演芸術の一連の創造プロセスを支援する機能 |
| ③交流機能 | 誰もが日常的に集い、憩い、居場所を見つけ、文化芸術を介して様々な交流ができる機能 |
| ④都市活性化機能 | 青葉山エリアの賑わい創出や、都心を含む都市全体の活性化に寄与する機能 |
| ⑤文化芸術力発揮機能 | 文化芸術の力を社会の様々な分野に活かしたり、様々な糸口から人々が文化芸術を体験したりする活動を行う機能 |
| ⑥人材育成機能 | 実演芸術の担い手、音楽ホールが目指す様々な活動を担う人材、これからの仙台の文化芸術を担う人材を育成する機能 |

※6つの機能は相互に関連。特に「人材育成機能」は、他の機能の実践を通じて人材が集まり、育ち、その人材の多様な活躍によって他の機能が更に充実するといったように、全ての機能の核となる。

3. 事業

| | |
|-----|---|
| ①創造 | <ul style="list-style-type: none"> ○幅広い方々が気軽に親しめる作品、高いクオリティを持った作品など、市民の多様な期待に応えられる鑑賞機会を提供する。 ○仙台ならではの企画、作品制作、発信を通じ、「楽都」「劇都」の都市ブランドをさらに高める。 ○全ての人に鑑賞の機会が開かれるとともに、誰もが音楽ホールの様々な空間を舞台として主体的な創造活動に参画できるようにする。 ○仙台の歴史、文化芸術の歩み、災害の記憶など、地域に根差した事柄をリサーチし、創造発信を行い、将来に向けた仙台の資源とする。 |
| ②活力 | <ul style="list-style-type: none"> ○広域から参加者が集まる交流事業やフェスティバル、集客力の高い事業などにより、来館・来街者を拡大していく。 ○青葉山エリアに関する情報提供や憩える場の提供などにより、エリアの活性化に寄与する。 ○青葉山エリアや都心部の施設・機関・店舗等と連携した企画展開により、音楽ホールのみならずエリアの魅力・仙台の魅力を高め、賑わいをもたらす。 |

| | |
|-----|---|
| ③発揮 | <ul style="list-style-type: none"> ○社会包摂の視点に立って、全ての市民が文化芸術を体験し、自らが持つ創造性を発揮できる多様な機会を創出する。特に、乳幼児を含む子どもたちが文化芸術と触れあう機会を創出する。 ○東日本大震災からの復興の力となった文化芸術の可能性を発展させ、地域・社会における諸課題の解決に文化芸術の力を活かすための取り組みを推進する。実施にあたっては、教育、福祉、医療、国際交流、産業など様々な分野との連携を図るとともに、最先端の技術の活用の可能性も模索する。 ○災害文化拠点としての取組とも連動しながら、新たなコミュニティの形成に寄与し、地域のレジリエンスを向上させる。 ○今後大きな災害が起きた場合には、文化芸術による復興支援の中心拠点となる。 |
| ④育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○プロを目指す人、趣味として活動する人、社会貢献やまちづくりのために活動する人、それぞれの立場において、より一層技量や能力を高められる機会を提供する。特に、若い世代に様々なチャンスや出会い、体験の機会を生み出す。 ○市民の文化芸術活動を様々な形で支援し、団体間交流などを促進する。 ○人材育成の第一歩として、幅広い層を対象に、施設や文化芸術に興味を持ってもらうための入門的な企画も実施する。 ○文化芸術の担い手と地域や他分野のステークホルダーなどをつなぐコーディネーターや、ワークショップを企画・実践できるリーダー的人材など、多様な人材を施設の内外に育成する。 |

4. 施設

| エリア | エリアの主要施設等 | 床面積の想定 |
|---------------------------|---|---------------------------|
| ホール エリア | <ul style="list-style-type: none"> ○大ホール：クラシックのコンサートやオペラ・バレエの上演などをはじめとする生の音源に対する音響を重視した2,000席規模のホール（ホワイエ・楽屋・バックヤード等含め7,400～7,500㎡程度） ○小ホール：生の音源に対する音響を重視しつつ、市民の多様な実演芸術活動の場となり、プロフェッショナルな創造活動の場ともなる300～500席程度のホール（ホワイエ・楽屋・バックヤード等含め1,600～1,700㎡程度） <p>※ホールの利用が無いときには開放することを想定している大ホールホワイエは1,600～1,700㎡程度、小ホールホワイエは250㎡程度。</p> | 9,000㎡ ～9,200㎡ 程度 |
| 練習・ 創造支援 エリア | <ul style="list-style-type: none"> ○音楽リハーサル室（倉庫・諸室等含め500㎡程度） ○舞台芸術リハーサル室（倉庫・諸室等含め600㎡程度） ○練習室群（複数の中・小練習室等） ○制作工房等（小道具・美術等制作場、収録室等） | 1,900㎡ ～2,000㎡ 程度 |
| 交流・文 化芸術力 発揮 エリア | <ul style="list-style-type: none"> ○交流ロビーゾーン（2,000㎡程度） <ul style="list-style-type: none"> ・エントランス交流ロビー（1,200㎡程度） ・情報コーナー、展示スポット、カフェ・レストラン等 ○ワークショップゾーン（1,100㎡程度） <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップスタジオ（300㎡程度） ・子どものための空間、創作アトリエ等 | 3,000㎡ ～3,100㎡ 程度 |
| 運営・協 働エリア | ○施設の管理運営・事業実施に必要な諸室、事業を協働して推進していく団体の諸室等 | 2,200㎡ ～2,500㎡ 程度 |
| その他 | ○廊下、階段、エレベーター、エスカレーター、ダクトスペースなどの機能施設以外の共通動線等及び設備・機械室等 | 12,900㎡ ～13,200㎡ 程度 |
| 合計 | | 29,000㎡ ～30,000㎡ 程度 |